

8月27日 ご近所の

釧路市医師会看護専門学校

グループホームを訪問

してきました

地域・在宅看護論の授業の中で学校近隣のグループホームを訪問し、地域で暮らす高齢者の理解をすすめました。



帰校後、ポートフォリオに学びをまとめました 



《ポートフォリオからの学びの抜粋》

-  食事を作る姿や音、においなどが感じられ家にいるのに近いアットホームな雰囲気や日課や役割がある、仲間がいることで静かで落ち着く居場所となり、症状が落ち着いていくとおもった。
-  ところどころ思い出せず言葉に詰まる方もいらっしやった。また、トイレに行ったり、食事前に手を洗ったり、その方の持てる力を活用しながら生活できるようにスタッフの方は声をかけていた。こんな関わりが症状の安定や進行を遅らせることになるんだと感じた。
-  認知症の方が多く、同じことを何度も繰り返し話していた。一人一人が好きな時間を過ごしていると思っていたら、集まって話をしている、ここにきて幸せと言っていた。人と話ができる環境があり、スタッフもペースを合わせて話しているから居心地がいいと感じられたと考える。グループホームは入った人が幸せと感ずることができる場所だと思った。
-  自分で歩ける方にはできない部分を手助けしているだけ、自分の力を使って生活するような援助しすぎない配慮を感じた。
-  入所されている方が多すぎないメリットをコミュニケーションや仲の良さから伝わってきた。